

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット／ユニット1)

事業所番号	2794000501		
法人名	株式会社 ピグマリオン		
事業所名	ピグマリオン 豊中桜ノ庄		
所在地	大阪府豊中市庄内栄町2丁目11番5号		
自己評価作成日	令和5年5月10日	評価結果市町村受理日	令和5年7月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4F		
訪問調査日	令和5年6月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症高齢者の方にゆったりとした生活を送ってもらいたいとの思いから、300坪の敷地に庭として100坪を確保し、リビング・居室もゆったりとした造りになっています。個人の生活空間を確保する為、あえてH型に居室を配置し、落ち着いた居住空間を作りました。各ユニットのリビングは開放的に窓を大きくとり、仮に外に出られなくても、天候・季節を感じる事ができます。庭に自由に出て、花壇の花や菜園を楽しむ事ができます。近くの景観水路を散歩したり、庭に出て過ごして頂くなど、引き続き感染対策を行いながら、外に出る機会を作っています。地域行事への参加や地域ボランティアの受け入れは現在再開しており、今後は以前のように近所の商店街への買い物や外食等も行えるよう検討中です。菜園の手入れや食事の準備・片付け等を手伝ってもらっています。それぞれのご利用者ができる事をしてもらう事で役割意識を持ち、達成感のある毎日を過ごせるよう支援しています。家族様と連絡の機会を持つことで常に利用者、家族様の意向を伺い、ケアに反映しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体は、当グループホームの他に小規模多機能型居宅介護施設を2か所運営している。当事業所近くの川沿いには桜並木が広がり、静かな落ち着いた環境にある。庭が広く、リビングルームのテラスにテーブルと椅子が置かれ、コーヒータイムを楽しめる。職員は、3か所の施設を月4～5日交代で勤務し、利用者が他の施設に移っても互いに馴染みの職員が継続して支援できるよう配慮している。社長夫妻のピアノと歌のコンサートを月1回開き、職員の特技を活かした折り紙の紫陽花や、可愛い女の子の人形を季節毎に衣装を替えて飾り、利用者を和ませている。家族から、「雰囲気温かく家庭的で、四季折々手作りでおもてなしをしていただき嬉しい」との言葉をもらっている。高齢になっても家族にとっても、当たり前の生活が笑顔で送れるようにと努力している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（2ユニット総合外部評価結果）

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「企業理念」と「行動規範」を毎日朝夕職員で唱和し、掲示している。	企業理念と事業所の理念「家族のような心と絆、いつも笑顔で落ち着ける空間、思いやりと気づきのケア、その方の視点に立って考える、地域に根ざした明るい施設、のぞみが叶う輝く桜ノ庄」を各フロアーのカウンターに掲示し、毎日朝夕職員で唱和して共有し実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	商店街への買い物等はまだ控えているが、地域の催しへの参加、ボランティアとして地域行事の手伝いなど、地域とのつながりを再び構築できるよう交流を再開している。	買い物などはまだ控えているが、自治会主催の桜まつりに6名の利用者が参加することができた。社会福祉協議会（社協）からのボランティアのフルート演奏会が月1回あり、夏休みの1週間には大学生の実習受入れを予定している。職員はボランティアとして地域の催しを手伝い、継続して地域との交流を深めている。	コロナ禍の収束を受けて、地域との付き合いは徐々に再開しつつあるが、今後自治会の催し・敬老会行事や社協主催のグラウンドゴルフ、小学校行事に参加し、保育園児とも交流して、利用者が地域の一員と暮らし続けられるよう更に取り組むことを期待する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域主催の研修会などの集まりも再開しはじめてるので積極的に参加していく。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、活動報告を行うとともに、委員からの意見を聞き、参考にしてサービス向上に活かしていたが、感染状況を見つつ開催している。	会議は2か月に1度開催し、豊中市社協・校区社協・民生委員・地域包括支援センター・介護相談員などが出席している。地域の新たな活動内容や事業所の行事報告・研修内容を議事録に記載し、出席者・家族に送付している。外部評価結果は玄関先で開示している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	豊中市介護保険事業者連絡会の会員であり、現在はオンラインでのリモートで各部会に頻繁に出席し、協力関係を深めている。	豊中市介護保険事業者連絡会に入り、情報提供したりケアマネジャー部会からも情報を取り入れて、積極的に協力関係を築いている。市社協の行事である9月の敬老のお祝いに出し物を依頼され、職員がバンドを組んで参加する予定である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の高い位置にセンサーを設置して対応している。身体拘束等については、身体拘束適正化委員会の委員が中心となり、定期的に研修を行っている。	「身体拘束等の適正化のための指針」を作成し、3か月毎の委員会と年2回の研修を実施している。不適切な言葉（スピーチロック）を使わないように日頃から心掛けているが、不適切な対応があればその都度管理者が注意をしている。転倒防止と夜間トイレへの移動の見守りとして、各居室に人感センサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に社内研修を行い、虐待に対する認識・知識の習得に努めている。認知症介護実践研修等も随時受講し、学ぶ機会を持っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	金銭管理や後見人申し立ての援助を行っている。現在も後見人の方々と連絡を取り合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	直接利用者や家族に対して説明を行い、質問内容には十分納得して頂いたうえで締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族へのモニタリングにより把握するように努めている。又豊中市の質の向上支援事業にも参加し、結果の公表も行っている。介護相談員の受け入れも行っている。	全家族と年1回以上個人面談を行い、また家族の面会時や電話連絡の時などに意見や要望を聞いている。利用者からは何気ない日常会話の中で意見や要望を聞くよう心掛けている。家族からの要望に沿って、利用者と一緒に外食をしたりコンサートに行くのを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議の場を設けて、意見の聴取を行っている。職員との面会の機会を持ち、アンケート方式で意見を把握するように努めている。又、研究会を設立し、各研究会から意見を聞く場を設けている。	月1回の全体会議があり、職員の意見や要望を聞く機会がある。夜勤介護・環境整備・介護技術の各委員会があり、職員は何れかに参加し、分担して運営に関わっている。ケアの仕方や物品購入、朝食の献立(パン派・ごはん派)などについて色々な意見が出され、できるだけ実践に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修の機会やスキルアップの為の資格取得の情報提供や受講費の補助を行っている。スキルアップの度合いにより、給与に反映される仕組みとなっている。ハード面では職員の意見をもとに整備するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会や情報提供を行っている。資格取得の為の勤務の配慮や助成も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンラインを活用し、豊中市介護保険事業者連絡会に参加し、総会ならびに、地域密着型サービス部会の実施する研修を受け、他事業所との交流をもっている。又、他施設での勉強会に参加したり、「地域ネットワーク会議」に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者が中心となって、出来る限り時間を作り、その方に寄り添い、傾聴するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成担当者がしっかりとアセスメントをおこなっている。毎月のモニタリングや個別面談などの機会を作り、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをおこない福祉用具業者、医療、薬剤師等と担当者会議をおこない、必要な支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	思いやりを持って、お互いに影響し合える関係を構築している。家族の様に接したいという思いから、あえて制服は着用していない。自立支援の観点からも利用者と共同で作業を行えるよう、声掛けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員側の押しつけの援助ではなく、常に相談しながら家族の思いを大切にした援助を心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所だけの対応で生活が完結するのではなく、家族や友人など馴染みの関係を保持し、いつでも来所できる環境を整えている。但し、現在は感染状況に応じて、感染対策を行いながら面会等を行っている。	利用者・家族から生活歴を把握し、できるだけこれまでの生活が継続するよう、馴染みの人や場所との関係を大切にしている。女学校時代の友人から手紙が届いたり、利用者の手紙の投函を支援したり、華道の先生に生花を活けてもらったり、読者が好きな利用者を支援している。携帯電話を所持している利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係を把握し、職員が間を取り持ち、できるだけ関わりを持つようにしている。それぞれの関係が円滑になるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了以降も、電話や訪問、文書でのやり取りしているケースがある。イベントや食事会などを行った場合には、声をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の意向も含め、本人の希望や思いを組み入れる様努力をしている。利用者全員の家族に個人面談の機会を持ち、ケアに反映させている。	家族から利用者の希望や思いをできるだけ聞くよう努めている。また何気ない日常生活の中から利用者の意向を聞き出し、夏物衣料の買い物に行きたい、コンサートに行きたいなど、把握した意向は日報や業務連絡・ラインアプリを使って職員間で共有し応えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴など家族や本人から情報を集めて、把握に努めている。又、気づきシートを作り、職員が本人から聞いた事柄などを皆で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々利用者と接する職員が気づいた情報を日報に記し、それを共有し情報の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングの結果を関係者と共有し、必要であれば担当者会議をおこなうなど意見交換をしている。	利用者・家族・主治医などの意見を取り入れ、計画作成担当者を中心に介護計画を作成し、月1回モニタリングを行っている。短期目標3か月、長期目標1年とし、利用者の状況変化や食事形態の変更があれば、その都度計画を見直している。介護計画書は家族に送付して説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個々に記録を取っている。職員の気づき等も活用し計画に反映している。それとは別に、その日を総合的に把握できるように日報を回覧している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに、できるだけ柔軟に対応するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源を把握して可能な限り参加し、日々の暮らしを楽しんでもらえるように働きかけている。近隣への外食・買物などは中止していたが、今後は再開して資源を活用していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や往診医と連携を取りFAX、電話にて情報共有しながら関わっている。必要時はかかりつけ医への受診の支援も行っている。	利用者・家族の同意を得て協力医療機関をかかりつけ医とし、内科は全員が、歯科・歯科衛生士は希望者が各々月1回の訪問診療を受けている。整形外科・精神科・皮膚科の訪問診療(月1回)もあり、家族同伴で脳外科を受診する人もいる。受診先にはファックスや電話で利用者の状況を伝え、家族から口頭で結果を報告してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護職は配置していないが、法人内の他事業所の看護職に情報や気づきを相談し指示をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、病院に訪問し病院関係者から情報を得ている。それ以外でも、本人に面会し状態を把握し、その情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の希望や思いを聴取し、事業所として出来る事を文書化することで、関係者と方針を共有し、職員会議で周知徹底している。	入居時に利用者・家族に緊急時の対応について説明し、重度化した時は「重度化した場合における（看取り）指針」を説明し同意書を得ている。定例会議と事例毎に終末期について研修し、終末期の対応に関するパンフレットを職員と家族に配付し周知している。開設以来数多くの人を看取り、コロナ禍の中でも家族は居室で見送った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命救急の普及員を配置し、適宜職員に対して研修を行える体制をとっている。又、マニュアルもすぐに見れるようにフロアに置いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応マニュアルを作成し、定期的に避難訓練を行っている。運営推進会議などを利用して地域の協力を依頼している。	「防災マニュアル」を作成し、火災・地震・水害を想定して自主避難訓練を年2回実施している。利用者也参加し、地震時はテラスから庭へ、水害時は2階へ避難する。地域消防団に有事の協力を要請しており、職員6名程は夜間でも直ぐに駆け付けられる。環境委員会が災害用備品チェックリストを作成し、水・食料などを備蓄している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を人生の先輩として敬い、自尊心を傷つけない対応を心がけている。その為の研修も行っている。	理念に「・・・思いやりと気づきのケア、その方の視点に立って考える・・・」と謳い、利用者を尊重したケアに努めている。プライバシー保護・接遇のマニュアルを作成して研修を行い周知している。脱衣室とトイレはドア1つで繋がりが、プライバシーが護れる。認知症であってもプライバシーはあり、親しさと馴れ馴れしさは違うことを意識してケアしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の思い込みだけで判断するのではなく、自己決定を促すよう心がけて援助を行っている。食事の内容も本人の嗜好に合わせて提供しているケースもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての希望に添うのは難しいが、できるかぎり穏やかに、本人の自由に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る服などは本人に選んで頂く。現在は好みを聞き、職員が衣服などの購入を代行している。訪問理容の時には、本人が要望を伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の残存能力を把握して、できるだけ日常の生活力として行ってもらっている。食事レクリエーションとして、利用者と共にメニューを考え、提供している。	朝は夜勤者が和食か洋食を用意している。昼食・夕食は業者の真空パックの総菜と汁物を温め、ご飯は事業所で炊いて提供している。「ご当地食」もあり、またほぼ毎週「手作り昼食レクリエーション」として様々な料理を楽しみ、手作りおやつも楽しんでいる。キッチンカーのおでんを利用したり、庭で栽培した野菜が食卓に上ることもある	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	盛り付けや食事の形状、食事環境を工夫している。食事量が少ない方は、主治医と相談し栄養補助食品を処方してもらったり、テラス等、場所を変えることも試みている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に行っている。自分でできる方は自ら、困難な方は職員が援助している。汚れが取りづらい場所は訪問歯科を利用している。口腔内清潔保持の為の助言を歯科衛生士よりもらって実践している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや習慣を把握する事と、こまめな声掛けを行う事で、排泄の失敗やおむつの使用を減らし、排泄の自立に向けた援助を行っている。	利用者個々の排泄パターン・習慣(食事後・時刻)やサイン(ソワソワ、モゾモゾなど)を把握し、適時にトイレへ誘導している。常時は布パンツだが体調が悪い時だけリハビリパンツの人や夜間ポータブル利用の人にも留意している。朝食時、排泄コントロールのために利用者に応じてスムージー・ヨーグルト・乳酸飲料を出している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を摂取する工夫、運動不足の解消、適切な水分摂取などに取り組んでいる。排泄のパターンを排泄し、トイレへの誘導を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や回数は特に決めず、利用者の体調で入浴時間帯を設定する。個人のペースに合わせて支援している。	利用者の希望・習慣に応じて、週2回～4回の午前中を基本に入浴している。嫌がる人は日時を替えたり声かけを工夫し、2人一緒だと入る人もいる。座位が保てる人には機械浴槽を使い、座位が保てない人にはシャワー浴・足浴を行っている。季節湯(菖蒲・柚子)や入浴剤・BGMで入浴を楽しみ、スキンケアも支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせる為、特に就寝時間は設けていない。日中でも休息できるように準備している。使い慣れた布団などを持ち込む工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が中心となり、服薬の管理を行っている。又、体調の変化時には随時、主治医・薬剤師に指示・指導を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技など、現在もできることを支援している。自ら意思表示できない利用者に対しては様々な提案をしている。本人の特技や趣味活動を通じて、はりのある生活を送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策を行いながら、天候や利用者の体調を勘案し提案している。遠くへの外出は控えているが、近隣の散歩や庭に出て過ごす時間を天気の良い日はほぼ毎日実践している。	事業所の直ぐ傍の景観水路沿いは日々の絶好の散歩道で、100坪の庭園では菜園や花壇の手入れなどを行い、テラスでは体操やおやつタイムなどで外気に当たっている。4月には4年ぶりに系列3施設合同で庭での花見を行い、120名の参加があった。5月から家族との外出を再開し、一緒にコンサートに出掛けた利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族や、預り金として事業所が管理しているが、本人の希望があれば、自己管理の元、所持してもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話は利用可能である。手紙のやり取りも規制は無く、必要であれば援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自宅に居るような感覚で過ごして頂く為、落ち着いた雰囲気になるよう照明や色使い、装飾に配慮している。季節ごとに花を飾ったり、額の絵を交換したりと工夫している。	食堂兼居間の庭に面した窓は大きく、明るい自然光が差し込む。壁面には過度に掲示しないよう留意し、品の良い折り紙の季節作品(今は紫陽花)を飾り、立ち姿の人形の服は季節毎に替えている。空気清浄機や消臭剤を活用し、1時間毎に窓を開けて換気し、冬には床暖房を稼働して快適な居住環境を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを配置し、自由な場所で座れるようにしている。共用空間から見渡せる場所に応接間があり、いつでも使用できる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や慣れ親しんだ物品などの持込を提案し、居心地良く過ごせるよう工夫している。各利用者の居室に担当を配置し、一緒に設えを考えている。	居室にはベッド・洗面台・クローゼット・エアコン・カーテンを設置し、壁紙とカーテンの色は居室毎に変えている。利用者は小タンス・椅子・テレビ・空気清浄機・位牌・ぬいぐるみなどを自由に持ち込み、小さくて不安定な物は大きい物に替えてもらって安全を確保している。不慣れなベッドから転倒したため布団に替えて、家族から感謝されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人がもつ能力を把握し、その能力をできるだけ発揮できる様に支援している。家事や庭の手入れなどの役割を持って頂いている。		